

2015.7.8

首都圏の就業希望がある未就業者の実態と ミドル層男性の長期未就業に関するレポート —「就業希望者年代比較調査」集計結果より—

リクルートワークス研究所(株式会社リクルートホールディングスの人と組織に関する研究機関)では、2015年1月に首都圏在住で就業希望がある未就業者を対象に「就業希望者年代比較調査」を行いました。就業希望がある未就業者の実態と、ミドル層男性の長期未就業に関して、集計結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

「就業希望者年代比較調査」の集計結果

【年代別】

・前職の離職理由で最も多いのは、若年層は「メンタルヘルス面の不調」、ミドル層は「身体的な病気・けが・体調不良」、シニア層は「定年」

前職の離職理由で最も多いのは、就業希望がある未就業者全体では「身体的な病気・けが・体調不良」(複数回答18.2%)である。年代別にみると、若年層(18歳～34歳)は「メンタルヘルス面の不調」(22.3%)、ミドル層(35歳～54歳)は「身体的な病気・けが・体調不良」(22.9%)、シニア層(55歳～69歳)は「定年」(24.9%)である。

(→詳しくは3ページ)

・「すぐに就職したい」人の割合は、若年層の43.3%、ミドル層の42.4%、シニア層の31.1%

「すぐに就職したい」のは、就業希望がある未就業者全体で39.6%、若年層の43.3%、ミドル層の42.4%、シニア層の31.1%である。就業希望があっても、「時期が来たら」「漠然といつかは」と考えている層が多い。

(→詳しくは4ページ)

・前職を離職してから1年以上のブランクがある長期未就業者の割合は、若年層の53.8%、ミドル層の69.9%、シニア層の75.5%に達する

前職を離職してから1年以上のブランクがある長期未就業者の割合は、就業希望のある未就業者全体の67.5%であり、年代別にみると、若年層の53.8%、ミドル層の69.9%、シニア層の75.5%を占め、年代が上がるほど増える傾向がある。

(→詳しくは5ページ)

【ミドル層男性の長期未就業の実態】

・未就業期間が長期化するほど、生活が困窮し、就業意欲が低下し、未就業の状態から抜け出せない可能性

未就業期間が長期化するほど、預貯金の取り崩しではなく他の世帯員の収入に依存するようになる一方、支出額が低くなる。また、周囲の就職に対する賛成度が低くなり就職に関して相談できる相手がいないことから、つきたいと思う仕事の範囲が狭くなるとともに就職意向が低下し、未就業の状態から抜け出せない可能性が高まっているといえる。(→詳しくは6ページ)

お問い合わせ先

リクルートワークス研究所 萩原牧子、戸田淳仁
e-mail: works_1@r.recruit.co.jp <http://www.works-i.com/>

【目次】

調査概要	2
集計対象者	2
Ⅰ-1. 前職の離職理由(年代別)	3
2. 就職意向(年代別)	4
3. 前職を離職してからの未就業期間(年代別)	5
Ⅱ ミドル層男性の長期未就業の実態	6
集計対象者の基本属性	8

【調査概要】

調査目的:就業を希望しながら未就業である者の、未就業の要因や期間、生活実態を明らかにすること

調査対象:首都圏(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県)に在住する、就業を希望しているが、就業していない
18歳～69歳の男女 ※完全失業者、就業希望者が対象で、学生・内定者・休業者は除く

有効回答数:1,968名

調査方法:インターネットのモニターサンプルを活用し、「労働力調査」(総務省統計局2013年)と「国勢調査人口等基本集計」(総務省統計局2010年)をもとに、都県別、男女別、年代別に割付を実施した

調査期間:2015年1月6日～8日

【集計対象者】

本レポートでは、マザー層(子どもと同居する女性と定義)を集計対象から外し、それ以外の未就業者の実態把握を目的とした。年代別の集計では、18歳～34歳を「若年層」、35歳～54歳を「ミドル層」、55歳～69歳を「シニア層」と分類している。(→基本属性の集計は8ページ)

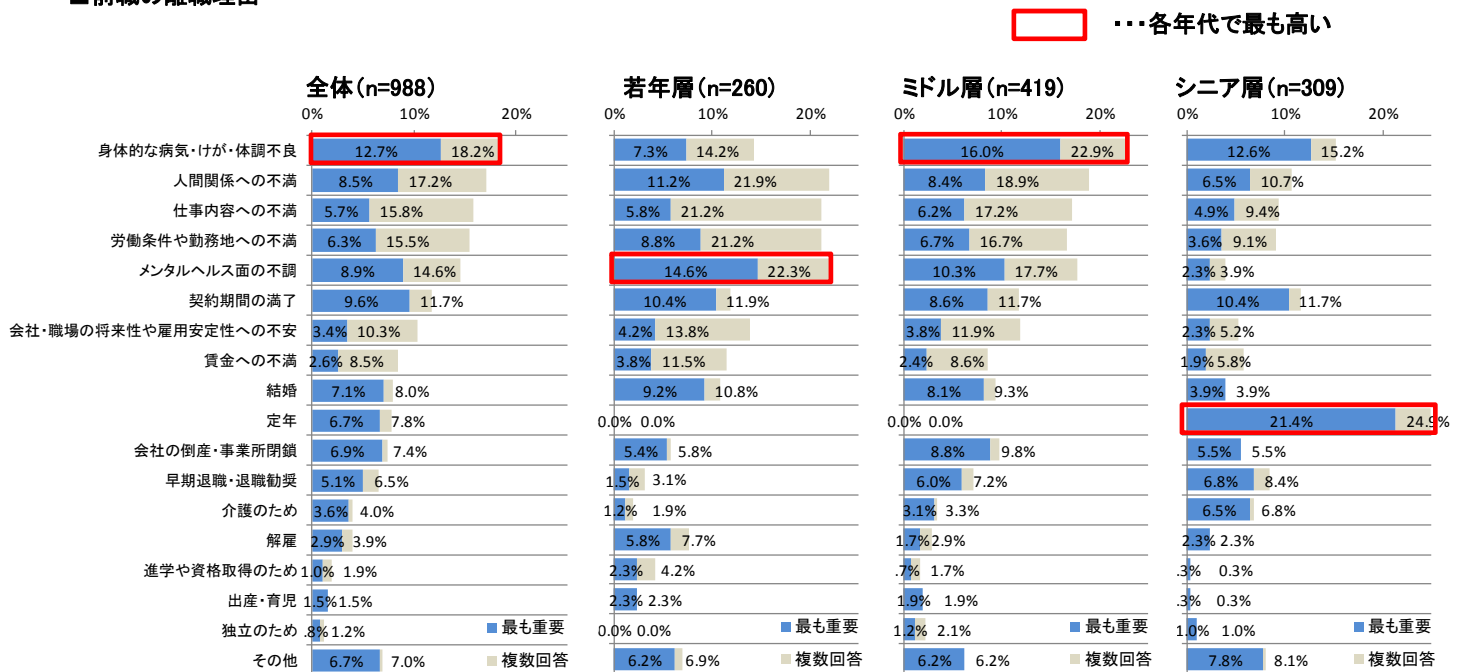
I - 1. 前職の離職理由(年代別)

就業希望がある未就業者全体で、選択率(複数回答)が高い順にみると、「身体的な病気・けが・体調不良」(18.2%)が最も高く、「人間関係への不満」(17.2%)、「仕事内容への不満」(15.8%)、「労働条件や勤務地への不満」(15.5%)、「メンタルヘルス面の不調」(14.6%)が続く。

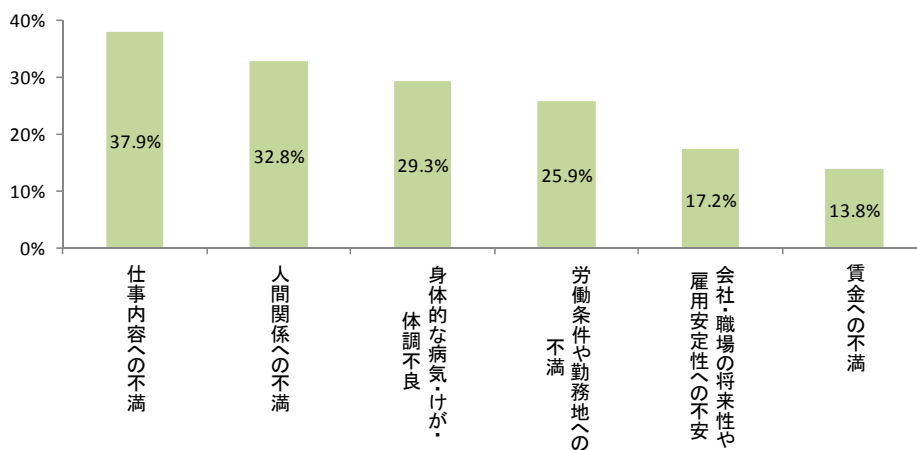
年代別にみると、最も高いのは、若年層では「メンタルヘルス面の不調」(22.3%)で、ミドル層では「身体的な病気・けが・体調不良」(22.9%)、シニア層では「定年」(24.9%)である。

若年層で最も高かった「メンタルヘルス面の不調」の選択者に注目し、その他の離職理由の選択率をみると、「仕事内容への不満」(37.9%)が最も高く、「人間関係への不満」(32.8%)、「身体的な病気・けが・体調不良」(29.3%)が続く。離職理由は複合的であり、さまざまな要因が重なって、離職している様子が見えてくる。

■前職の離職理由



(参考) 若年層の「メンタルヘルス面の不調」選択者の他の離職理由選択率



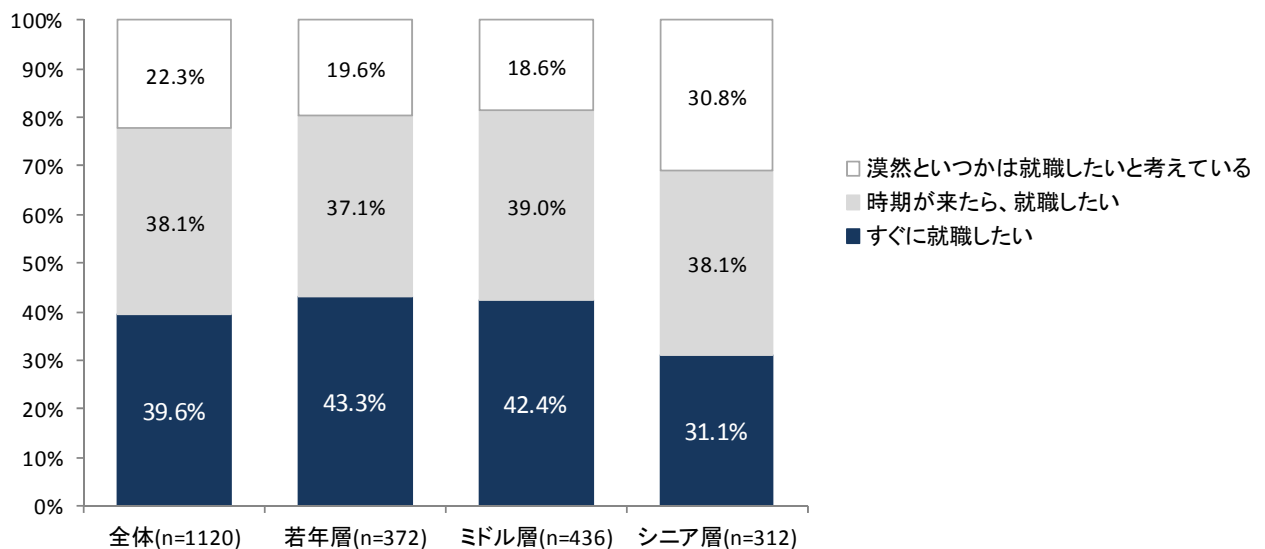
※選択率が5%以上のもののみ表示

I - 2. 就職意向(年代別)

「すぐに就職したい」のは、就業希望がある未就業者全体で39.6%、若年層の43.3%、ミドル層の42.4%、シニア層の31.1%である。就業希望があっても、「時期が来たら」「漠然といつかは」と考えている割合が多い。

「すぐに就職したい」ではない理由をたずねると、就業希望がある未就業者全体では「いまは、自分の希望する仕事がないため」(33.4%)が最も選択率が高く、「メンタルヘルス面の不調のため」(22.2%)、「身体的な病気・けが・体調不良のため」(20.7%)が続く。年代別に最も選択率が高いものをみると、若年層、ミドル層ともに「メンタルヘルス面の不調のため」(33.6%; 27.9%)で、シニア層では、「いま、自分の希望する仕事がないため」(45.6%)である。また、年代が上がるほど、「メンタルヘルス面の不調のため」「学校以外で進学や資格取得のための勉強をしているため」の割合が下がる一方で、「身体的な病気・けが・体調不良のため」と「介護・看護のため」の割合が高くなり、年代による差異がある。

■就職をどの程度考えているか :単一回答



■「すぐに就職したい」ではない理由 :単一回答

	全体	若年層	ミドル層	シニア層
メンタルヘルス面の不調のため	22.2%	33.6%	27.9%	4.2%
身体的な病気・けが・体調不良のため	20.7%	9.0%	23.9%	28.4%
いまは、自分の希望する仕事がないため	33.4%	28.9%	26.7%	45.6%
介護・看護のため	9.0%	1.9%	10.8%	14.0%
学校以外で進学や資格取得のための勉強をしているため	4.6%	9.0%	3.6%	1.4%
その他	10.2%	17.5%	7.2%	6.5%
n数	677	211	251	215

※「就職をどの程度考えているか」の問いに、「すぐに就職したい」を選ばなかったひとを調査対象とした

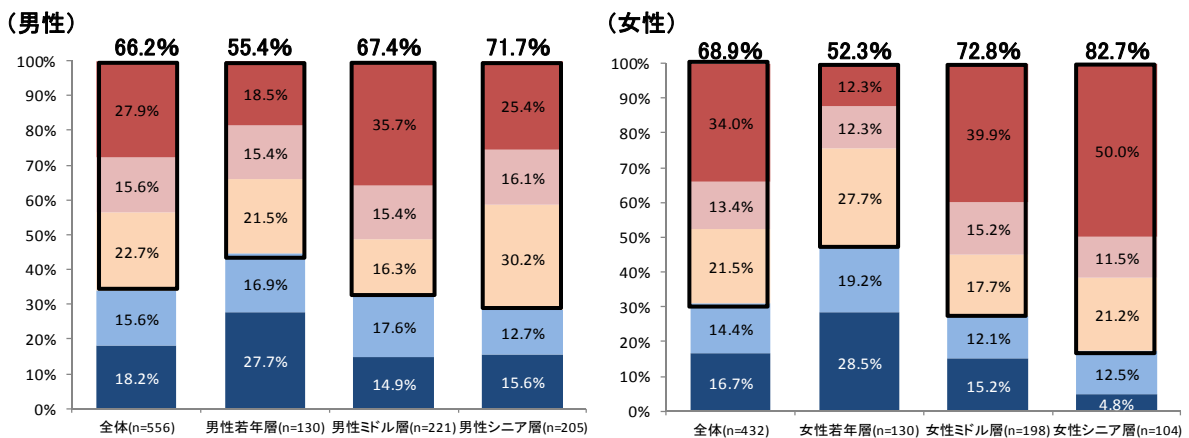
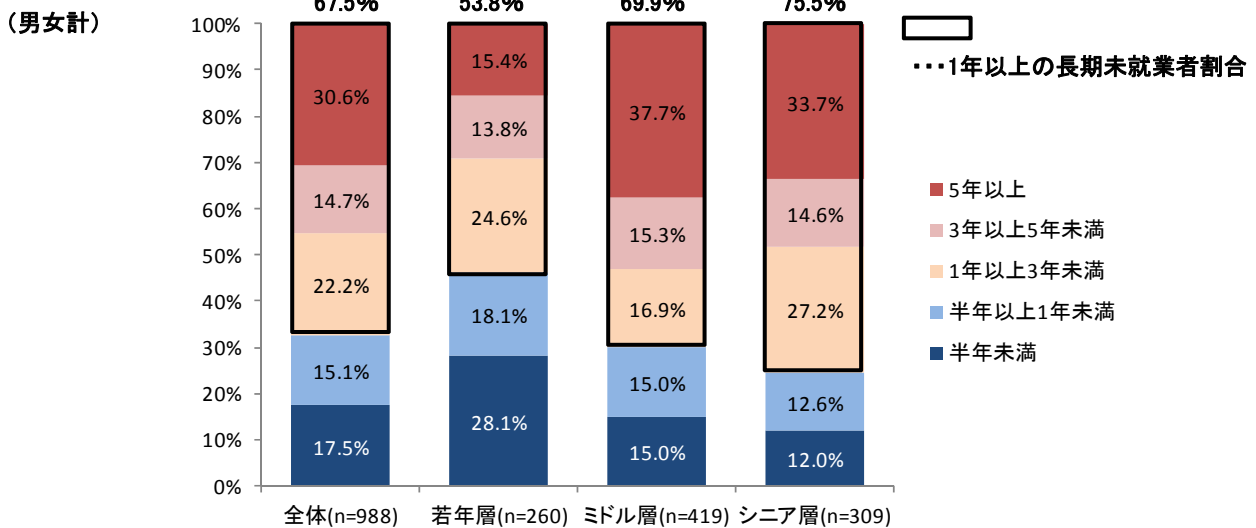
I -3. 前職を離職してからの未就業期間(年代別)

1年以上ブランクがある長期未就業者の割合は、就業希望のある未就業者全体の67.5%であり、年代別にみると、若年層の53.8%、ミドル層の69.9%、シニア層の75.5%を占め、年代があがるほど増える傾向がある。

さらに、未就業期間が5年以上である割合は、就業希望のある未就業者全体の30.6%、若年層の15.4%、ミドル層の37.7%、シニア層の33.7%を占め、ミドル層が最も高い。

男女別にみると、女性のほうがミドル層以降で、未就業期間が長くなる傾向がみられる。とくに、女性のシニア層では半数が5年以上と、未就業期間が長い。

■前職を離職してからの未就業期間



Ⅱ ミドル層男性の長期未就業の実態

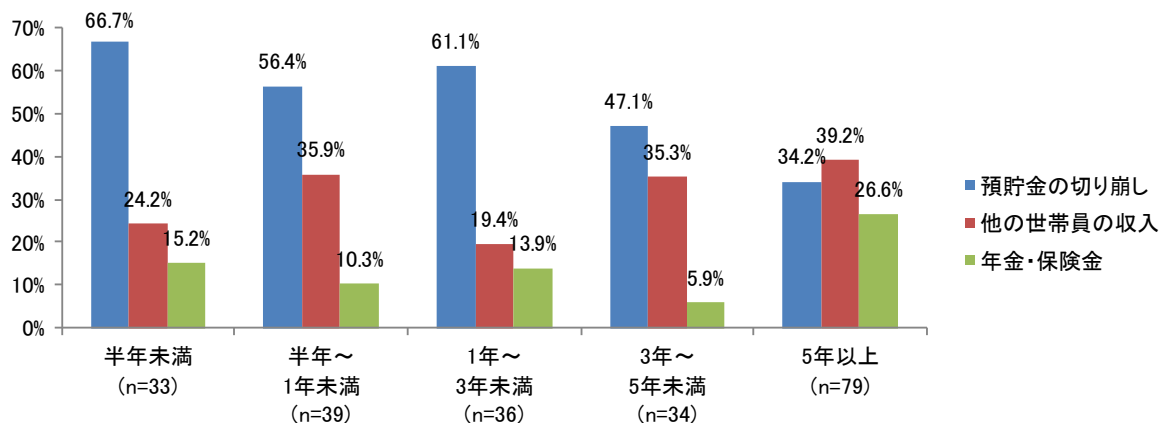
未就業期間が長期化するほど、預貯金の取り崩しではなく他の世帯員の収入に依存するようになる一方、支出額が低くなる。また、周囲の就職に対する賛成度が低くなり就職に関して相談できる相手がいない割合も高い。つきたいと思う仕事の範囲が狭くなるとともに就職意向が低下し、未就業の状態から抜け出せない可能性がさらに高まる。

世帯の生活費の主なまかない方は、未就業期間が短い段階では「預貯金の切り崩し」が高いが、未就業期間が長くなるにつれ「他の世帯員の収入」の割合が高くなり、預貯金が減少していることがうかがえる。そのため、世帯の支出額も、未就業期間3年以上において、約5割は10万円未満となり、生活を切り詰めていることがうかがえる。

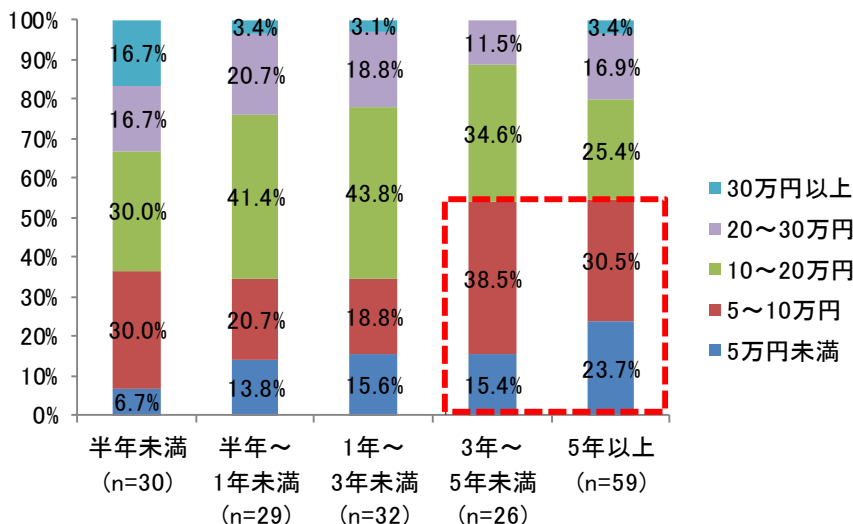
未就業期間が長くなるにつれ、配偶者が就職に対して賛成する割合が低下している。また、未就業期間が1年を超えると、就職に関して相談する相手がいない人の割合も高くなっている。

未就業期間が長くなるにつれ、つきたいと思う勤務地の範囲も自宅から近距離と回答する割合が高くなることから、つきたいと思う仕事の範囲が狭くなっている。また、すぐ就職したい割合も未就業期間が3年以上では4割弱まで低下している。未就業期間が長期化することにより、未就業の状態から抜け出せない可能性がさらに高まっているといえる。

■未就業期間別 世帯の生活費の主なまかない方(ミドル層男性) :複数回答

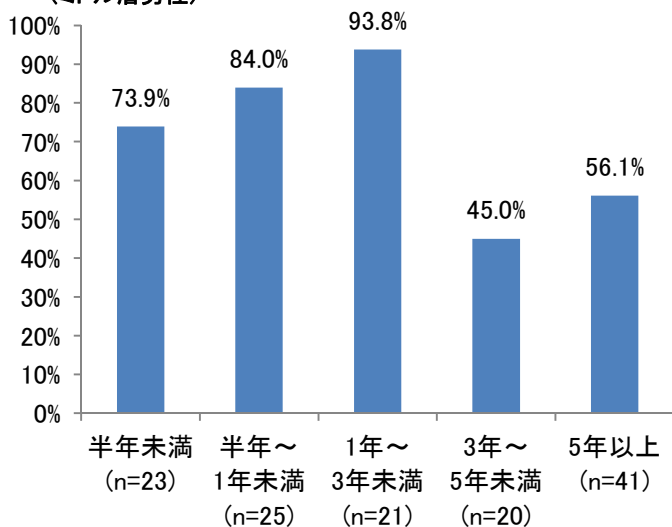


■未就業期間別 1か月の世帯の支出額(ミドル層男性)

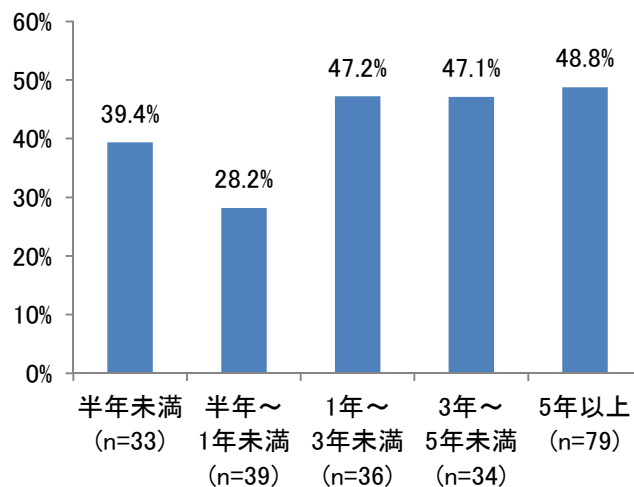


※「わからない・答えたくない」は集計対象外

■未就業期間別 配偶者が本人の就職することに賛成の割合 (ミドル層男性)



■未就業期間別 仕事や就職に関する相談をできる相手がいない人の割合 (ミドル層男性)

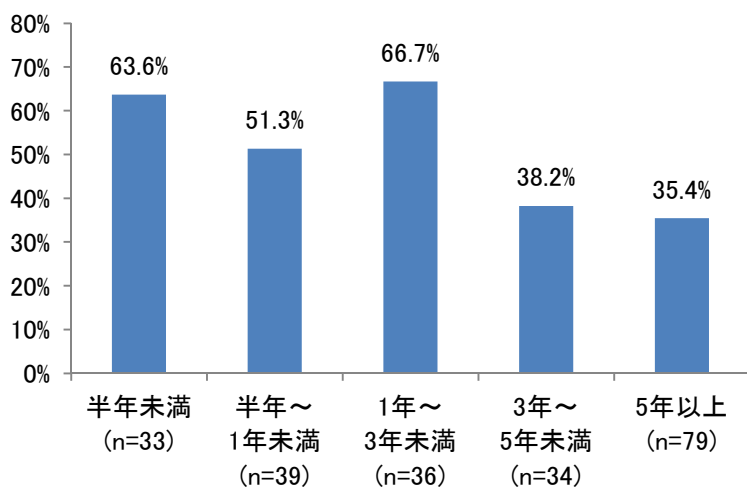


※「該当なし」を除き集計

■未就業期間別 勤務地の条件 (ミドル層男性) : 複数回答

	半年未満	半年～1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年以上	未就業期間・計
特にこだわらない	12.1%	28.2%	2.8%	14.7%	11.4%	13.6%
在宅でできる仕事	12.1%	15.4%	13.9%	14.7%	29.1%	19.5%
自宅から徒歩・自転車圏内	27.3%	23.1%	25.0%	41.2%	45.6%	34.8%
自宅から電車やバスで30分以内	36.4%	28.2%	36.1%	41.2%	46.8%	39.4%
自宅から電車やバスで1時間以内	33.3%	33.3%	38.9%	20.6%	40.5%	34.8%
転居が必要でない範囲	21.2%	12.8%	22.2%	26.5%	17.7%	19.5%
n数	33	39	36	34	79	221

■未就業期間別 すぐ就職したい意向のある人の割合 (ミドル層男性)



集計対象者の基本属性

		全体	若年層	ミドル層	シニア層
性別	男性	57.8%	56.5%	53.0%	66.0%
	女性	42.2%	43.5%	47.0%	34.0%
年代	18～24歳	5.5%	16.7%	0.0%	0.0%
	25～34歳	27.7%	83.3%	0.0%	0.0%
	35～44歳	22.4%	0.0%	57.6%	0.0%
	45～54歳	16.5%	0.0%	42.4%	0.0%
	55～69歳	27.9%	0.0%	0.0%	100.0%
同居者 (複数回答)	誰とも同居していない	19.5%	14.0%	20.2%	25.0%
	父母	39.9%	60.2%	40.8%	14.4%
	兄弟姉妹	15.4%	30.4%	11.5%	2.9%
	配偶者	39.3%	21.2%	38.5%	61.9%
	子	8.8%	2.4%	6.0%	20.5%
学歴	小学校・中学校・高等学校・旧制中学校	40.3%	42.7%	39.7%	38.1%
	専修各種学校・短期大学・高等工業専門学校	24.3%	22.6%	31.2%	16.7%
	大学・大学院	35.4%	34.7%	29.1%	45.2%
中退経験	中退した経験がある	14.1%	22.0%	11.0%	9.0%
学校卒業以降の 就業経験	1社に就業した経験がある	25.0%	25.8%	22.0%	28.2%
	2社以上に就業した経験がある	63.2%	44.1%	74.1%	70.8%
	一度も就業した経験はない	11.8%	30.1%	3.9%	1.0%
	n数	1120	372	436	312

中退経験者の中 退学校	高等学校中退	40.5%	46.3%	45.8%	14.3%
	専修各種学校中退	13.9%	17.1%	16.7%	0.0%
	短期大学中退	4.4%	2.4%	0.0%	17.9%
	高等工業専門学校中退	1.3%	1.2%	2.1%	0.0%
	大学中退	32.9%	28.0%	29.2%	53.6%
	大学院中退	2.5%	1.2%	2.1%	7.1%
	その他の中退	4.4%	3.7%	4.2%	7.1%
	n数	158	82	48	28